編集後記

梅雨とはいえ，九州では台風並みの風雨に見舞われました．竜巻といい，ゲリラ豪雨といい，かつて耳にしなかった事象は地球規模の気象異常と関係があるのでしょうか．

さて，JNET.Vol.6-1 をお届けいたします．前号でお伝えいたしましたように，発刊が順次やや遅れておりますが，本年はプログラム号以外の通常号を年 4 号発行する予定にいたしております．皆様からの積極的な投稿をお待ちいたしております．

JNET では現在，投稿いただいた motivation をできる限り大切にさせていただきたいと考えております．先日，審査に際して，ある重鎮の先生から，「論文は日常の診療で気を付けねばならないことについて，警告を与えてくれると思います．論文にした努力をかって採用といたしたいと思います」という，短くも大変重たいコメントをいただきました．投稿いただいた論文には，JSNET の同僚会員にぜひとも伝えたいメッセージが込められています．しかし，だからといって JNET の審査が甘いのかというと決してそうではありません．JNET に掲載された論文は永久に残り，その時点での JSNET の学術レベルの一端を示すことになります．審査委員の先生がたのコメントは大変手厳しいこともあります．時には著者の勘違いや認識不足があり，審査はそれ自体が著者への「教育的指導」になっています．論文審査は，道場といってもいいかもしれません．文章には個性がありますが、学術論文は随想や日記ではありません．学術論文としてあるべき文章のスタイルがあります．投稿規定の遵守は最低限のことですし，誤字脱字はもってのほかです．ときには「てにをは」から直されます．白黒の写真をカラーモードでお送りいただくとファイルサイズが大きくなります．英文校正の native speaker は医学論文校正の専門家を指しているのであって，英語の上手な日本人ではなく，手近におられる外国人のかたでもありません．審査にあたる先生がたは多くの場合，著者よりも年長の authority のかたです．Blind 査読ですから著者名が伝わることはありませんが，審査に際しての礼儀があって然るべきでしょう．共著者に専門医，指導医のかたがおられませんか．あるいは脳血管内治療の専門でなくとも，周りに年長のかたがおられたら投稿前に学術論文として適切かどうか，一度みていただきましょう．ときに原稿と共著者名を見比べて眼を疑うことがあります．

とはいえ，JNET ではいただいた原稿が掲載レベルにいたるまで，たとえ時間がかかっても著者とおつきあいをさせていただき，お互いのレベルアップを図りたいと考えております．ぜひ皆様のご投稿をお待ちいたしております．

平成 24 年 5 月

JNET 編集委員長　中原一郎

訂正：前号の JNET は「2012 Vol.5 No.3」として発行いたしましたが、「2011 Vol.5 No.3」と訂正させていただきます．

JNET　Vol.6 No.1 May 2012

2012 年 5 月 31 日発行　第 6 巻　第 1 号
編集・発行　特定非営利活動法人日本脳神経血管内治療学会
〒 102-0074　東京都千代田区九段南 2 － 1 － 30
イタリア文化会館ビル 8 F
TEL：03-3239-7264　FAX：03-3239-7225
E-mail：jsnet-admin@umin.ac.jp
Web site：http://www.jsnet.umin.jp/
製　作　株式会社メディカ出版
〒 532-8588　大阪市淀川区宮原 3 － 4 － 30
ニッセイ新大阪ビル 16F
TEL：06-6398-5048　FAX：06-6398-5068/5071

本書の著作権は当学会が所有しておりますので、当学会の許諾を得ないで本書の内容を転載刊行することを禁じます。